

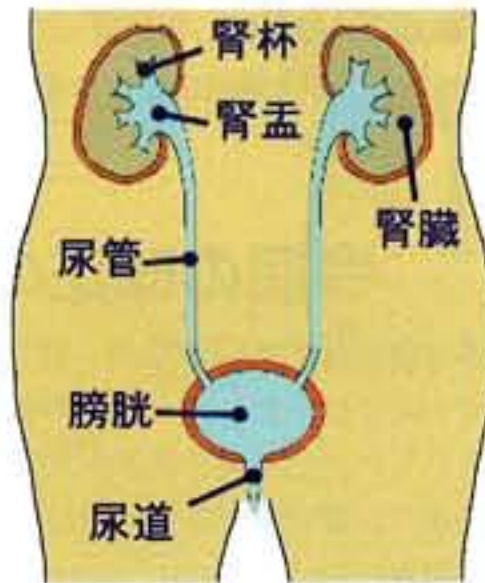
蛋白尿、血尿と

言われたら！

血尿はなぜ出るのでしょうか？

尿の色が正常なのに血尿だと診断されるとびっくりされると思いますが、血尿のほとんどは目に見えない微量の血液を含んだ尿です。この場合、尿の通り道（腎臓、尿管、膀胱、尿道）（図1参照）のどこかに出血を起こすような病気がある可能性があります。痛みがある場合は、尿管結石や膀胱炎などを考えますが、症状がない場合には、腎臓病や尿路系腫瘍のことがあります。しかし「特発性」といって原因不明の良性的場合や、発熱、脱水、運動に伴うような心配のいらぬものもあります。

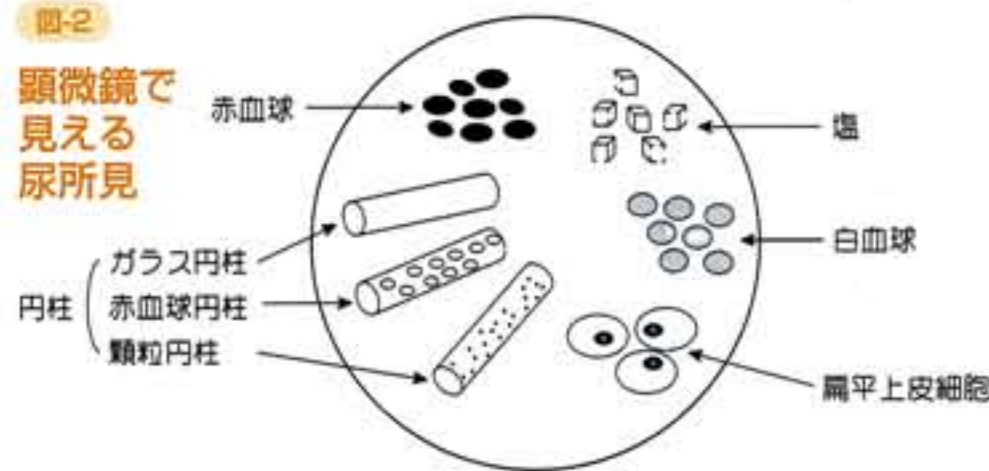
図-1
尿の通り道
(尿路)



血尿と言われたら？

やはり1回の検査ではわからないので早朝尿を含めた再検査が必要です。さらに再検査では、顕微鏡で実際に血液がどの程度尿に出ているのか見る検査（図2参照）や尿の細胞を見る検査を行います。血尿の原因疾患には、腎炎などの内科的な疾患と尿路系腫瘍や結石などの泌尿器科的疾患があるので、どちらにかかるかは医師の判断に従ってください。

図-2
顕微鏡で
見える
尿所見



いろいろな検査でさらにチェック！

①血液検査

特定の血液成分を調べることで、老廃物のろ過具合など、腎臓が正常に働いているかがわかります。また腎臓病の原因となる病気（高血圧、糖尿病、痛風など）についても調べます。

②画像検査

単純レントゲン写真で腎臓の大きさ、形、位置、結石などを見ることができます。CTやエコーではさらに詳細な腎、尿路系の様子を観察できます。また

造影剤を点滴して腎臓から尿管、膀胱にいたる尿の通り道に異常がないかをレントゲンで調べる検査もあります。泌尿器科では、膀胱鏡で膀胱の中を調べることもあります。

③腎生検

尿蛋白が多く出ているときには、局所麻酔をして極少量の腎臓の組織を採取して顕微鏡で調べます。これにて腎臓の病状を正確に把握することができます。

蛋白尿、血尿のすべてが異常というわけではありません。経過観察だけですむことも多いのですが、きちんと調べておくことが大切かつ安心です。

腎臓はなかなか自覚症状が出ない臓器です。そのため、気づいた時にはかなり進行して腎臓の働きが落ちていることがあります。定期的な検尿で、病気の早期発見に努めましょう。

定期的な
検尿で
早期発見を！



不二越病院
内科医師
圓谷 千佳

なぜ検尿をするのでしょうか？

学校や職場の健診では、必ず検尿が行われます。簡単な検査ですが、尿は身体の中のいろいろな情報を教えてくれます。大変な病気が隠れていることもあります。ご存知のように尿糖は糖尿病の指標にな

りますが、尿蛋白や尿潜血が何を意味するのかわからない方もおられると思います。そこで検尿で異常を指摘された場合、どのようなことが考えられるのかについてご説明します。

蛋白尿はなぜ出るのでしょうか？

血液は体内の老廃物を回収して腎臓に運び、ここで血液がろ過されてきれいになります。この際、たんぱく質などの大きな物質はほとんどろ過されませんが、腎臓に病気が起こると、ろ過されずにそのまま出てしまいます。したがって蛋白尿が出る場合に

は腎臓に病気がある可能性があります。しかし、運動や発熱による一過性のもの、起立性蛋白尿という立位によって出るものは健康な人でも出ることがあり、この場合は病気とはいいません。

蛋白尿と言われたら？

腎臓の病気の可能性があるのか、問題のない一過性のものなのかを見定めるためには1回の検査ではわからず、日を変えての再検査が必要です。起床時に尿をとって検査（早朝尿）をすることがありますが、これは病的なものかどうかの判断に重要な検査です。

（表1参照）早朝尿に異常がなければまず心配はいりませんが、異常がある場合は一日尿をためて、出ている蛋白の量や特別な物質の量をはかります。これによって、治療が必要なものかまた原因が何なのかを突き止めることが大切です。

表-1 尿の採り方

随時尿	時間を問わずに、その都度採取した尿。日常的な排尿と同じ状態で調べられる。
早朝尿	時間を問わずに、その都度採取した尿。日常的な排尿と同じ状態で調べられる。
一日尿	朝起きてすぐに採取した尿。安静時の尿として異常の有無を判断するのに重要。